



歴史資料室 展示資料のご紹介

創立130周年の記念事業として母校に歴史資料室が設置され、数々の貴重な資料が展示・保存されています。先の大戦の戦禍や、戦後の混乱、重なる校舎の移転を経ながら、同窓会員や関係者の努力で保存されたものばかりです。それらの資料をシリーズで紹介してゆきます。

今月の資料 新県商・誕生の歴史 オーラルヒストリーより ⑩

わが国最古の商業教育機関である母校も、太平洋戦争の敗戦にともなう教育制度の改革で、旧県商から新県商へ関係者の絶大な尽力で蘇ります。

この経緯が Oral History に纏められていますので紹介してゆき
(拡大すると見やすくご覧願えます)

吉森 特に、時川先生は星陵高校との特異が出ないようにお考えから、県商生の学力の向上を願われ、ときには、自宅に生徒を呼んで勉強を教え下さいました。「特訓に米ないと大にいけないぞ」と言われて通称時川塾に通い、関西学院に合格し同級生います。

鈴木 なんて県商の母屋である校舎をどうもと譲ってしまったのか、県商、星陵高校、商科大学の校舎へ行くついでに、商科大学に行くには星陵高校の校庭を通らなと行けない。運動場の横に「商」と書いてある。どこに行くのにも商業の「商」と書いてあるで、県商が旧県商の校舎を引き継ぎ、星陵高校が新校舎に移れば良かったのと思つていました。

大野 私たちが、若し、旧県商の重水校舎という立派な形のある遺産の中で勉強し歴史と伝統を直接肌で感じる事が出来ていたら、また、違った県商生に育つていたらと思います。

司会者 授業時に簿記珠算など商業科のことで、印象に残った先生についてお聞かせ下さい。

坂口 入学当初先生からなく、星陵高校の生徒に引け取らないよと言われ、そして、旧県商の先輩達が優であったこと、態度、聞かれました。必須科目である簿記と珠算はなかなかでも検定に合格しなければと必死で勉強しました。タイプ実技の授業が好きで受けたタイプキ

阪上 一のブライントッチの技のお蔭で入社後、先輩のみさんからはびっくりされ頼りにされました。現在もパソコンでその技を駆使し大いに楽しんでいます。

阪上 授業そのものには特に印象はありませんが、一年生のとき時川先生が「自身の旧制高校時代の自由闊達な校風や無精髪が頭まで伸びて味噌汁をするのに苦労されたという、古き良き時代の高校生生活を回顧し語っておられたのが妙に新鮮で羨ましく思い強く印象に残っています。高校一年生の時、舟木二夫の「高校三年生」という歌が流行し、いわゆる学園ソングの走りや共感を呼び広く歌われていました。あたかも、高度経済成長時代を迎え世の中全体に明るさが横溢し、健康的な雰囲気が強かったのではないのでしょうか。商業科目は、なんとなく苦手なので、一年生の時、簿記二級の検定試験を受けましたが不合格、簿記も珠算も結局二級を取らずに卒業してしまいました。一年生から二年生への進級判定で、珠算成績が不具合で土木先生から呼び出され補習を受け辛うじて進級できました。今思えばもう少し身を丸めて勉強しておけば良かったと反省しています。

矢野 簿記担当の先生から卒業しなければ珠算二級、簿記三級は必ず取れ、そうすれば他の科目は多少不出来でも卒業できると指導を受け、励まされ勉強したのを思い出します。また、一年生の

時の担任田先生(教科は国語)に「本を読んどことより本が皆さんを成長させる」と言われたことを今でも覚えています。学生時代は余り本を読まなかったが、就職してからは、多方面の分野の方々と接する機会が多く、恥をかかないよういろんなジャンルの本を読んだものです。

川本 入学した昭和二十九年と云は十月に東京オリンピック大会が開催され、合わせて東海進新幹線が開業するなど、日本が国際的に注目を浴びた年です。校内では昭和四十年に体育館が完成し、校庭に噴水が設置されるなど、学校の環境も徐々に整っていき、入学して初めて簿記に出会い、当初は戸惑いもありましたが、一年生で簿記実務検定に合格し張り出された時は、たまたま純に嬉しかったです。その後、一年生の後期に文部省後援第二十六回簿記実務検定試験に合格したことはとても嬉しく心に残っています。

丸尾 一回生は一年生になった時にクラス替えがあり、二年、三年生はいずれも組入れ替えは無く、七組と八組が進学組として編成されていきました。一年生に於いては攻科目として書道、音楽、美術の三つのコースの内一つを選ぶようになっていきました。

阪上 二回生も同じく二年生から就職組と進学組に分かれ、私は一年生から進学クラスに席を置きま

丸尾 入学して直ぐに実力検査が実施され、成績順位が廊下に張り出されたことを記憶しています。その時の一番、二番、三番の人の名前を今でも覚えています。

大野 私の場合も、入学して直ぐに実力試験が行われ、その成績が廊下に張り出されました。その結果、私の名がクラスに知れ渡り学級委員長になったことを覚えています。

川本 実力検査の成績の掲示についての記憶は三回生の場合有りますが、全校生の良みにする場所の掲示板に、簿記検定合格者が張り出されました。

鈴木 四回生の場合には、廊下に成績などが掲示されることはありませんでした。先生方は、生徒間の競争意識を高め、かつてエリートと言われた、旧県商時代の生徒のような水準に少しでも近づかせたいと、いろいろな手法を取りましたが、一方で、学力だけを生徒を評価すべきではないとの意見もあり、結局、四回生以降は成績などは掲示されませんでした。しかし、なかなか県商生の学力を高めたいと、日々思考される先生方の切なる思いが伝わってきました。

川本 入学当初二回生、二回生は優秀です。三回生は、それを越える目標を持ち、頑張つてほしい」とと激励されました。また、一年生のホームルームの時間、当時の先生から「本田校長先生は教師